

# 彙報

○平成二十一年度講義題目

〈大学院〉

日本文学研究の方法(1)(2)

高橋教授・塩村教授

阿部教授・坪井教授

大井田准教授

日本の文芸論(1)(2)

高橋教授

平安朝文学研究と文学理論(1)(2)

高橋教授

『枕草子』を読む(1)(2)

高橋教授

西鶴研究(1)(2)

塩村教授

日本書誌学研究(1)(2)

塩村教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

戯れ歌の時代—和歌史の構想

久富木原玲講師(非)

樋口一葉と明治の文化

甘露純規講師(非)

日本語研究の歴史A・B

釘貫教授

明治期文典の研究

釘貫教授

日本語学研究上の諸問題

釘貫教授・齋藤教授

文法史研究

矢島正浩講師(非)

万葉集を読む

釘貫教授

現代日本語の単語使用の研究

石井正彦講師(非)

漱石作品から見た近代日本語

田島 優講師(非)

日本精神史—『死者の書』の精神史

阿部教授

儀礼テキストワールドワーク演習

阿部教授

太子伝を読む

阿部教授

宗教テキスト学

阿部教授

宗教テキスト学特論

阿部教授

宗教テキスト学実習—大須文庫聖教調査—

阿部教授

中世寺院における宗教テキストの世界

阿部教授

古代和歌の諸問題(1)(2)

大井田准教授

日本言語文化入門(1)(2)

齋藤教授

日本言語文化の諸問題(1)(2)

齋藤教授

翻訳語の研究(1)(2)

齋藤教授

古今和歌集研究(1)(2)

大井田准教授

文化史研究と文字(1)(2)

坪井教授

占領期文学研究 1945-1947, 1947-1948

坪井教授

視覚文化理論研究(1)(2)

坪井教授他

近代と近代批判の諸相(1)(2)

坪井教授他

日本文化の基層(1)(2)

齋藤教授

大井田准教授

日比准教授

移動／定着の日本語文学論(1)(2)

日比准教授

テキスト布置解釈学各論Ⅱ

高橋教授・阿部教授他

テキスト布置解釈学各論Ⅲ

釘貫教授

〈学部〉

日本文学研究の諸問題(1)(2)

高橋教授

『枕草子』を読む(1)(2)

高橋教授

西鶴研究(1)(2)

塩村教授

日本書誌学研究(1)(2)

塩村教授

徒然草研究(1)(2)

塩村教授

中世人の連想の世界(1)(2)

塩村教授

戯れ歌の時代―和歌史の構想

久富木原玲講師(非)

樋口一葉と明治の文化

甘露純規講師(非)

日本語研究の歴史A・B

釘貫教授

文法史研究

矢島正浩講師(非)

明治期文典の研究

釘貫教授

万葉集を読む

釘貫教授

日本語学研究上の諸問題

釘貫教授・齋藤教授

現代日本語の単語使用の研究

石井正彦講師(非)

漱石作品から見た近代日本語

田島 優講師(非)

古代和歌の諸問題(1)(2)

大井田准教授

古今和歌集研究(1)(2)

大井田准教授

日本語文化入門Ⅰ・Ⅱ

齋藤教授

古領期文学研究 1945-1947, 1947-1948

坪井教授

『死者の書』の精神史

阿部教授

儀礼とテキストフィールドワーク演習

阿部教授

太子伝を読む

阿部教授

『モデル小説』から見るプライヴァシーの近代

日比准教授

空間表現と文学

日比准教授

空間表現と文学

日比准教授

○平成二十一年度春季大会

日時 七月十一日(土) 午後一時三十分～午後五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

シンポジウム『文芸テキストと日本語史』

パネリスト

勝又 隆(中部大学非常勤講師)

「ムモノゾ」形式から見た助詞「ソ(ゾ)」の関

わる文終止について

金 銀珠(名古屋大学 GCOE 研究員)

中古語の接統節における助詞「の」

― 述語の形態・意味・統語的特徴を中心に ―

釘貫 亨(名古屋大学教授)

王朝文芸テキストにおける過去辞が介入する名

詞修飾の特徴

宮地朝子 (名古屋大学准教授)

ダケの歴史的变化再考

— 形式名詞の文法化として —

矢島正浩 (愛知教育大学教授)

「写実型」文学資料による言語研究

— 近世期以降の当為表現に注目して —

司会 釘貫 亨

総会

懇親会 午後六時～八時 グランピアット山手通店

# ○平成二十年度卒業論文

「小説神髓」を周辺の劇論から読み解く 鈴木暁音

説経「しんとく丸」の清水観音について 伊藤麻祐子

「俳諧類船集」成立の研究 大前尚子

「俳諧類船集」における伝承歌 河村瑛子

「俳諧類船集」に見える時間の進行感覚について 木下恵理

「好色五人女」研究

徒然草にみる有職故実

「源氏物語」におけるゆゆし

「平家物語」における死生観

「好色五人女」研究

「徒然草」にみえる出家者について

女性語の多様性

— 『笑う大天使』におけるデータ分析 萩友里子

古川正雄『絵入智慧の環』における名詞格について

状態変化主体の他動詞文 伊藤由利子

接続助詞「シ」の新用法 稲垣智香

— 関西方言「シ」との関連において — 黒田ゆうこ

古代語動詞「飽く」の意味変化についての研究

鳥取県東伯耆地方方言における助動詞「ナル」について 中村香葉

名詞「自分」の用法 浪花千尋

— 歴史的変遷を通して —

感情動詞の格とその特徴 長谷美幸

— 7格、2格に注目して —

接尾辞「的」の新用法について 松野美海

接尾辞「的」の新用法について 横谷美可莉

# ○平成二十年度修士論文

「西鶴諸国ばなし」研究 堅田陽子

徒然草享受の研究 河村真理子

「源氏物語」における限定表現をめぐって 高橋亜樹

「源氏物語」の漢詩文を中心とした表現の方法 内藤英子

日本語の五十音図とシンハラ語の音図 (ホーディヤ)

の比較対照研究―音韻学史から近現代国語教育へ―

ATTANAYAKE PRIYANTHIKA

感情述語文における人称制限

―感情形容詞と感情動詞の役割分担― 王紅

現代日本語ラレル文における多義解釈の成立条件

―受身と自発を中心に― 高橋芽衣子

○平成二十年四月から平成二十一年三月、次の方々が博

士学位を取得された。

「つれづれ」の源氏物語論

都 基弘  
(課程博第二四七号)

和漢聯句の研究

楊 昆鵬  
(課程博第二四九号)

日本古代語名詞述語文研究の射程

―アリ・ナリの「意味」から統語構造、

名詞句の意味へ― 須田真紀  
(課程博第二五一号)

近代語史における副詞の記述的研究 中尾(櫛橋)比早子  
(課程博第二五二号)

うつほ物語の長篇力

本宮洋幸  
(課程博第二五五号)

『源氏物語』女三宮のことは

西原志保  
(課程博第二五六号)

『源氏物語』の終焉・浮舟の恋

賛 裕子  
(課程博第二五八号)

○本年四月一日現在、日本語学日本文学研究室には、学

部二年生十三名、三年生二十一名、四年生十九名、大

学院前期課程十七名、後期課程二十九名、研究生・聴

講生五名の、計百四名(内、留学生十三名)が在籍し

ている。

○平成二十一年度秋季研究発表会

日時 十二月十二日(土)午後二時～五時

場所 名古屋大学文学部二三七講義室

内容 「不婚内親王の准母立后と『我身にたどる

姫君』品宮」 鹿谷祐子

「近代における聖書用語の変遷

―「天使」「福音」の受容過程を中心

にして― 加藤早苗

「キリシタン文献で用いられる」(ティル)

について」 千葉軒士

懇親会 午後六時～ グランピアット山手通店

○本誌への投稿をお待ちしています。投稿規定は次の通りです。

\*投稿資格 本学会員

\*枚数 出上がり原稿にて一四頁（二十五字

×二十二行×二段組／頁）以内を厳守。

但、審査の過程で加筆の必要が生じ、結果として掲載時に一四頁を超過する場合もある。

\*原則としてフロッピー入稿とする。

（フロッピー入稿規定参照のこと）。

手書き原稿の場合は事務局にご相談下さい。

\*原稿の採否は編集委員の採否を経て運営委員会が決定する。

\*原稿の採否の問い合わせには応じない。

\*投稿原稿は返却しない。

\*投稿の際、原本一部、コピー二部、計三部それぞれに要旨（二百字程度）を添付のこと。

（フロッピー入稿規定）

一、3.5インチフロッピーディスクによる。

二、データはテキストファイルの形を原則とする。

三、入稿に際しては、フロッピーディスクのほか、必ずプリントアウトした原稿を三部添付すること。  
テキストファイルに保存できないデータ（特殊文

字・罫線等）や割付けは、この原稿にしたがって版を組む。

四、採用の場合、校正編集補助費として、原稿一本につき五千円徴収いたします。

五、審査はプリントアウトした完成原稿によつて行う。  
付記、次号（百三号）の締切はゴールデンウィーク翌週の日曜日（二〇一〇年五月一四日）必着です。

○編集委員（五十音順）

阿部泰郎・大井田晴彦・釘貫 亨・齋藤文俊・

榊原千鶴・塩村 耕・高橋 亨・坪井秀人・

日比嘉高・宮地朝子

○本号の刊行に際しての実務担当委員は次の方々です。

李 芝賢・小出祥子・玉田沙織・出口游基

高橋亜樹